

日本学術会議（第24期）第3回物性物理学・一般物理学分科会議事録

日時：平成31年2月22日（金）12:30～13:30

会場：日本学術会議5階5-A(1)

出席：川村、松尾、家、板倉、植田、香取、倉本、腰原、笹尾、高須、瀧川、
常行、十倉、鳥養、平岡、藤澤、三間、森、吉田（19名）

参加（スカイプ）：新永、伊藤公孝、田島、川上、河野、笠、西野（7名）

欠席：五神、伊藤早苗、伊藤公平、金田、白濱、高安、寺崎、根本、早川、細
越、村尾、村上、吉川（13名）

事務局：宮本

審議・報告事項：

1. 第24期第1、2回分科会議事録の承認（資料1_1, 1_2）（川村委員長）

第24期第1、2回分科会議事録が承認された。

2. マスタープラン2020について（資料2-1, 2-2, 2-3, 2-4, 2-5）（川村委員長、松尾委員、森委員）

マスタープラン2020の策定方針が学術会議の科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会でまとめられたこと、物性物理コミュニティでは物性委員会で2回にわたり「物性研究の大型将来計画」の意見交換を行い2月22日の日本学術会議シンポジウムを迎えたことなど、川村委員長、松尾委員から説明があった。

特に、マスタープラン2020選定の方針として、現在進行中の「大規模学術フロンティア促進事業」で近く10年年限を迎える事業のプロジェクトも含め、3期9年以上継続して選定されている重点大型研究計画はリセットして新規提案として扱うこととすることが示されたこと、「大規模学術フロンティア促進事業」のプロジェクトが数多く進行している物理学委員会では、研究計画・研究資金検討分科会に対して、柔軟な対応での選定を希望する旨の要望書を出したことが報告された。また、マスタープランにおける融合分野の評価に対しては、各分野の評価小分科会、さらに融合領域の評価小分科会で評価される方針であることが報告された。

各大型施設・大型研究計画についてのアンケートを、物性物理学・一般物理学分科会委員を対象に行い、評価小分科会の選定の参考資料とすることが承認された。さらに、アンケートに回答するために、各計画より発表 ppt を提出いただくこととなった。

3. 物一提言 WG のその後の経過について（資料 3-1,3-2,3-3,3-4,3-5）（川村委員長、森委員、瀧川委員）

物一提言 WG 経過について、川村委員長、森委員、瀧川委員から説明があり、意見交換を行った。ワーキンググループでは、3回の会合を持ったこと、議論の結果、提言については、以下3つを柱としてまとめる予定であることが報告された。

（１）資源の配分における「政策的誘導」と「研究者の創意」の適正なバランス

（２）研究・教育の水準向上に必要な大学等の制度改革

（３）これからの日本の科学・技術推進のあり方

松尾委員、腰原委員より、内閣府そして JST のプロジェクトに、要素技術開発の基盤研究から、応用までを支えるプロジェクトが動き始めていることが紹介された。また、政府・産業界連絡会分科会の提言もあるが、物性物理・一般物理分野の特徴を活かした提言を目指したい旨が、川村委員長から報告された。

諸事情により、ワーキンググループ座長を、森委員から瀧川委員に交代する旨が了承された。

4. その他

物理教育研究分科会の報告（笹尾先生）（資料 4-1,4-2）

本年度、2回物理教育研究分科会を開催したこと、そしてその活動内容について報告があった。

分科会資料

資料 0 議事次第

資料 1_1：第 1 回物性物理学・一般物理学分科会議事録（案）

資料 1_2：第 2 回物性物理学・一般物理学分科会議事録（案）

資料 2-1：第 24 期マスタープラン策定の方針

資料 2-2：SCJ シンポ 物一分野の展開と大型研究計画

資料 2-3：物性委員会_物性研究の大型将来計画について(2018 年 9 月 13 日)

資料 2-4：物性委員会_物性研究の大型将来計画について(2018 年 12 月 27 日)

資料 2-5：マスタープラン 2020@物性委員会シンポ

資料 3-1：第 24 期日本学術会議第 1 回物性物理学・一般物理学分科会提言 WG
メモ

資料 3-2：第 24 期日本学術会議第 2 回物性物理学・一般物理学分科会提言 WG
メモ

資料 3-3：第 24 期日本学術会議第 3 回物性物理学・一般物理学分科会提言 WG
メモ

資料 3-4：論点まとめメモ

資料 3-5：政府・産業界連絡会分科会提言

資料 4-1：第 24 期第 1 回物理教育研究分科会議事要旨

資料 4-2：第 24 期第 2 回物理教育研究分科会議事要旨

以上